

## 対象

障害のある人が通う福祉施設でのモノづくりに関心のある人。障害のある人の新しい仕事づくりをしていきたいと考える人。福祉施設従事者、自治体（障害福祉担当課・産業振興課など）、社会福祉協議会従事者、地場産業従事者、アーティスト、デザイナー、大学生、ほかソーシャルビジネスに関心のあるNPO等。

## お申し込み方法

参加申し込みフォームの必要事項①～⑤について、下記お申し込み先まで **電話、FAX、メール、ウェブサイトまたは郵送**でお申し込みください。なお、定員になり次第締め切らせていただきます。  
※定員をこえてご希望に添えない場合のみ、ご連絡いたします。

## 定員

**先着 100名** 定員になり次第、締め切らせていただきます。

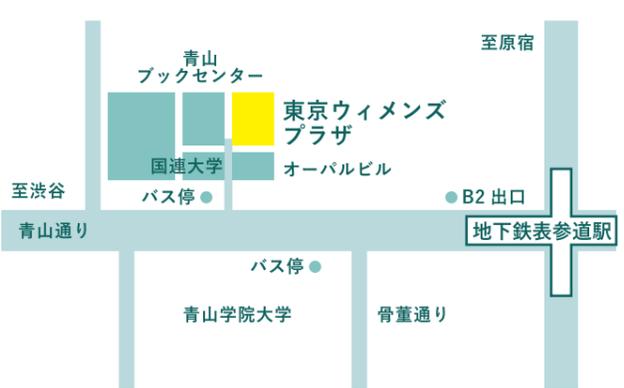
## 参加費

**5,000円 / お一人様分** 当日会場にてお支払いいただきます。

## お問い合わせ・お申し込み先

**東京モノづくりサロン受付係**  
(NPO法人エイブル・アート・ジャパン内)  
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 アーツ千代田3331 #208  
**電話** 03-5812-4622 **FAX** 03-5812-4630  
**メール** office@ableart.org  
**ウェブサイト** http://www.ableart.org/

## 会場のご案内



**東京ウィメンズプラザ**  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67  
(会場に関するお問い合わせは 03-5467-1711 までお願いします)  
● JR・東急東横線・京王井の頭線・東京メトロ副都心線  
**渋谷駅** 宮益坂口から徒歩 12分  
● 東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線  
**表参道駅** B2 出口から徒歩 7分  
● 都バス (渋88系統)  
**渋谷駅** から2つ目 (4分) **青山学院前バス停** から徒歩 2分

## 東京モノづくりサロン - 福祉がつくる暮らしの未来シンポジウム -

### お申し込みフォーム

①お名前(ふりがな)  
-----  
②所属先・活動内容等  
-----  
③ご住所(ご自宅以外の方は団体名も記入してください)  
-----  
④ご連絡先  
TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_  
-----  
E-mail \_\_\_\_\_  
-----  
⑤情報保障 (手話通訳、要約筆記など必要な内容を開催の2週間前までにお知らせください)  
-----  
上記項目をご記入の上、FAX かメール、もしくはウェブサイトの申し込みフォームにてお申し込みください。

※お預かりした個人情報は、本企画の受付事務においてのみ使用させていただきます。※やむを得ない事情により、プログラムの一部を変更させていただく場合があります。※お申し込みから1週間以内に受付完了の返答が無い場合は、お手数ですが直接お電話にてお問い合わせください。

なぜ、  
何のために、  
福祉施設が  
モノづくりを  
するのか？

2017  
11 / 23  
木曜・祝日  
10:00 - 16:00

@東京ウィメンズプラザ

# モノづくりサロン

- 福祉がつくる暮らしの未来シンポジウム -  
future of living inspired by wellbeing

主催・NPO法人エイブル・アート・ジャパン 共催・東京モノづくりサロン実行委員会 後援・東京都

問い合わせ先：東京モノづくりサロン受付係 (NPO法人 エイブル・アート・ジャパン内)  
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 アーツ千代田 3331 #208 TEL : 03-5812-4622 FAX : 03-5812-4630 E-mail : office@ableart.org

### モノづくりサロンとは

2013年から障害者福祉施設職員を対象に、施設商品の改善や開発の基礎を学ぶ場としてスタート。東京、神奈川、埼玉、千葉など関東近郊の福祉施設職員延べ100人以上が受講しており、卒業生の中にはサロンで学んだことを生かし、新商品の開発や一般市場での販売につなげたり、商品販売の場でディスプレイを工夫するなどの例も出てきています。モノづくりサロンは実行委員会形式で運営しており、実行委員は加藤未礼(おおきな木・認定ワークショップデザイナー)、前川亜希子(HUMORABO デザイナー)、河原レイカ(パラスポ! ジャーナリスト)、NPO法人エイブル・アート・ジャパンの3個人と1団体で構成しています。  
本企画「東京モノづくりサロン」は、上記モノづくりサロン実行委員および、高野賢二(クラフト工房 LaMano 施設長)、三田大介(すみのわコーディネーター)、猪股春香(株式会社ふくしごと)、終伸江(株式会社ダブディビ・デザイン)を含む東京モノづくりサロン実行委員会で運営しています。

<https://www.facebook.com/Monodukurisalon/>

# 東京モノづくりサロン

## - 福祉がつくる暮らしの未来シンポジウム -

future of living inspired by wellbeing

手仕事によるモノづくりは、単にモノをつくることに留まりません。つくる人が、買う人や使う人のことを思い、モノを介して人と人がつながる。そんな心を込めて丁寧につくられたモノは、私たちの暮らしをやさしく彩ります。

福祉施設のモノづくりが向かう未来について、このシンポジウムではさまざまなゲストがトークセッションを行います。参加者それぞれが、福祉の新しい魅力の発見と課題解決の糸口を探すべきかの場となればと考えています。

### プログラム

全体テーマ 「福祉施設のモノづくり。その可能性と未来について」

オリジナルなモノづくりを進める福祉施設が増えてきました。なぜ、何のためにモノをつくるのか、その行為はどこに向かっているのか。福祉がつくる暮らしの未来について、さまざまな参加者による魅力の発見と課題解決の糸口を探ります。

**第1部** 10:00 ↓ 11:30 トークセッション：ブランドプロダクトと福祉プロダクトの融合は可能か。

### モノづくりサロン・プレゼンテーション

#### スペシャルトーク 1

なぜ、東京都が福祉施設商品のショップを作ったのか？その先に見据えているものとは。

トークゲスト：山元 幸恵 / 東京都福祉保健局障害者施策推進部地域生活支援課 課長代理(事業推進担当)

東京都福祉保健局障害者施策推進部に在籍。都内の障害者福祉施設で作られた自主製品に対する理解促進と販売機会の提供を図るため、自主製品(雑貨)を販売するショップ「KURUMIRU」の立ち上げ時から事業を担当。現在、「KURUMIRU」は、都庁店・丸井錦糸町店・伊勢丹立川店の3店舗で展開中。  
[http:// kurumiru.metro.tokyo.jp](http://kurumiru.metro.tokyo.jp)



#### スペシャルトーク 2

魅力的な商品とは？バイヤーから見た福祉施設のモノづくりとその可能性。

トークゲスト：山田 遊 / バイヤー、監修者

東京都出身。南青山のIDEE SHOPのバイヤーを経て、2007年、method(メソッド)を立ち上げ、フリーランスのバイヤーとして活動を始める。現在、株式会社メソッド代表取締役。2013年に「別冊 Discover Japan 暮らしの専門店」が、エイ出版社より発売、2014年「デザインとセンスで売れる ショップ成功のメソッド」誠文堂新光社より発売。



**第2部** 12:30 ↓ 16:00 テーマトーク：魅力を発見し課題解決の糸口を探そう。



#### 1 Founding -みつける-

2013年からモノづくりサロンでも毎回実施してきた「Talk Tree WORKSHOP」。組織を1本の木に見立て、自分たちの商品の可能性を発見します。このワークで見出したコンセプトの事例を紹介し、このワークのミニバージョンをみなさんに体験していただきます。

ファシリテーター  
加藤 未礼(おおきな木)

#### 2 Challenge -やってみる-

福祉施設とデザイナーの協働によって生まれたブランド「メジロック」。そのブランディングやモノづくりについて、施設職員とデザイナーが課題や成果、裏話を語ります。

トーク  
豊島区立目白福祉作業所・生活実習所  
ウミノタカヒロ(MUTE)  
con\*tio



#### 3 Creation -つくる-

つくり手としての福祉施設とは。個々の技術を伸ばし、商品の価値を高めるためにどんなことをしているのか。その個性の開発と発信について語ります。

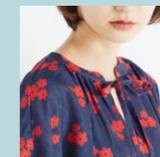
トーク  
セキユリヲ(Salvia)  
高野 賢二(工房 LaMano)



#### 4 Promotion -ひろげる-

福祉発信の商品販売の現状と課題、これからの展望について、UNICOLARTのディレクターを交えて考えます。

トーク  
芦田 晃人(株式会社フェリシモ)  
三田 大介(すみのわ)



### トークゲスト

豊島区立目白福祉作業所・生活実習所



ROCKな目白、メジロック。家族や地域の人、職員のいろいろな想いと一緒に、「楽しもうよ！恋してる？礼儀正しく。人にやさしく。仲間を大事に。つながろうぜ！」の6つ(ロック)のテーマでゆる〜く(時には)熱くつながってきたい。もっと楽しく、もっとワクワク、もっとハッピーに、そんな想いを込めて、これからモノづくりを展開する。

ウミノ タカヒロ (MUTE)



イトウケンジとウミノタカヒロにより2008年に結成。共に桑沢デザイン研究所卒業。プロダクト、スペース、グラフィックなど領域にとらわれず、ディレクションからデザインまでトータルで行う。主な仕事に、「col.」、「くみひも」、「MONOPURI / PANAMA」、「tempo / circle waltz」、「石巻工房」のアドバイザーボードなどがある。Young Designer Award 2015 受賞。

con\*tio



障害とアートを軸に活動するNPO法人エイブル・アート・ジャパンのスタッフとして培った社会福祉観をもとに、2014年にcon\*tio(コンティオ)を設立。定期的に様々な福祉施設に関わり、商品開発やアトリエ活動のサポート、展覧会やイベントのコーディネーターをしている。福祉の現場・ひとの魅力を引き出せるような役割を通して、主に関東の障害福祉のネットワークづくりを目指して活動している。

セキユリヲ (Salvia)



やわらかくあたたかく、色彩豊かな図案を考えるデザイナー。2000年より「サルビア」の活動をスタートし、古きよき日本の伝統文化に学びながら、今の暮らしによりそうものづくりをすすめる。雑誌や書籍のデザインの仕事や著書も多数。2009年より1年間スウェーデンに暮らしながらテキスタイルや織り、染色などを学び、帰国後は東京・蔵前にアトリエを構え、ワークショップやイベントをひらく。現在育児中。

高野 賢二(工房 LaMano 施設長)



1976年生まれ。福島県出身。学生時代に東京で染色を学ぶ。2000年クラフト工房入社。染色担当の指導員として染色の技術を生かし、障がいのある人たちの物づくりを模索。メンバーの絵を使った手ぬぐいや藍染の鯉のぼりを企画。また、外部との共同のモノづくりを進める。2006年にはアトリエ(アート活動)を始動し、アートを仕事に取り入れる。アート・クラフト・デザインの融合した商品制作に力を入れる。

芦田 晃人(株式会社フェリシモ)



神戸大学大学院卒業後、2011年に株式会社フェリシモに入社。物流部、障害者支援事業(CCP)チームリーダー、基金事務局事務局長を経て、現在はファッションブランドhaco!の事業戦略ディレクター兼 UNICOLART代表を務める。大学在籍時より一貫して、社会課題をビジネスで解決することを人生のテーマに掲げ、日々挑戦中。

三田 大介(すみのわ)



プランナー/有限会社モアナ企画 取締役  
東京都墨田区生まれ。墨田区に在住のクリエイターたちと共に、2014年より同区内の福祉施設の商品開発・販売を支援するプロジェクト「すみのわ」に取り組み。地元行政や近隣工場と連携しながら、12の施設と墨田ならではの商品づくりを行っている。

### 全体会 / 振り返りトークセッション

※プログラムの内容は変更になる場合がございます。ご了承ください。